

日時 令和7年10月2日（木）

10：00～

於いて ケアホームつくしんぼ

令和7年度 地域連携推進会議 次第

1、あいさつ

2、地域連携会議の目的、構成員の編成、進め方について

（事務局説明）

3、出席者の紹介と議題（話題）について

「会議の議題については、施設等側からの一方的な報告にならないよう、構成員と
双方向で意見交換できる議題」（地域連携推進会議の手引きより）

4、その他

5、閉 会

日時 令和7年10月2日(木)

10:00～

於いて ケアホームつくしんぼ

令和7年度 地域連携推進会議(会議録) 要約版

事務局 ひとつ皆様方にお願いがございます。本会議の会議録は、制度上公表しなければなりません。発言者はわからないよう個人情報に留意して公表いたします。後日、ラブラドルのホームページで公表する予定ですのでご理解をお願い致します。なお、本会議で知り得た利用者の個人情報や個人が特定できる情報を外部に漏らさないこともお願い致します。次第にそいまして弊社代表取締役よりあいさつをお願いいたします。

代表取締役 本会議は、事業所が閉鎖的にならないように、地域の方との連携、交流、見学などで施設を知ってもらう、運営内容を説明して理解していただくことを含めて推進会議といいます。いろいろとご意見いただければと思いますのでよろしくお願い致します。

事務局 地域連携推進会議の目的、構成員の編成、進め方についてご説明いたします。
地域連携推進会議の目的は、施設等と地域が連携することにより、利用者さんと地域との関係づくり、地域の人が施設や利用者さんに関する理解を深めること、あと、サービスの透明性・質の確保、利用者さんの権利擁護の点検などが目的であることが国の方から示されております。このような理由から地域の関係者と外部の方が参画する会議体になります。

事務局 (事務局が構成員を読み上げ、紹介する。)

事務局 会議の議題については、施設等側からの一方的な報告にならないよう、構成員と双方向で意見交換できる議題と地域連携推進会議の手引きで示されておりますので、事務局から指名させていただきます。構成員のAさん、議題の提案をお願いします。

構成員A

現在は社会福祉法人の事務局長です。以前にグループホームの統括責任者の経験があります。議題ということで、BCP、業務継続計画の策定状況を議題としてお願いします。

事務局 それではBCP業務継続計画の策定状況について事務局から説明いたします。株式会社ラブラドルには3つの事業所、プラス本部があります。昨年度の報酬改定に合わせてすべての事業所においてBCPを策定しております。BCPの策定については、元障害者支援施設の長からも携わって頂き、各事業所の実態に合わせて策定いたしました。ひとつの事業所に自然災害と感染症の2つを整備しています。昨年度は、委員会、研修、訓練を実施しております。今年度は、まだ未実施ですが、年度末まで終わらせる予定で、BCPの感染症と感染症の予防及びまん延の防止のための対策と類似しておりますので、感染症に係る研修については、10月に予定しております。事務局Cから詳しい説明をお願いします。

- 事務局C 10月17日の日に職場内研修を実施する予定です。内容としては、基本的な感染対策とか、現場サイドでガウンとかディスポの着脱の仕方など現場でも活かせる内容になっています。
- 構成員A 私のところは、ここと違い日中活動事業所なので少し違います。ここだと山が近くで、川もあり、道路も近い、何かあった場合に避難するのか、ここで待機するのかどこに避難するのか、具体的な計画についてお聞きしたいと思います。
- 事務局 建物の設計上、ここの建物は、建築基準法によりますと耐震基準で震度7程度の揺れでも倒壊しない設計になっております。実際は、ここが一番安全で、居室だと柱が4隅立っているんで更に強度があると設計士さんから言われています。
- 避難するより留まる方が安全なのですが、障がい福祉サービスの制度上、非難場所の計画を立てる必要があります。しかし、避難場所まで車いすの利用者さんを長い距離を押して避難することは、現実的には難しいことです。
- 事務局B 地域の消防団の方にはいつでも協力しますと口約束ですが、お願いをしています。
- 事務局 消防団は、日中は留守になるので、実際の災害の時にはすぐには当てにできないかもしれません。
- 構成員A 消防団は、皆仕事にでているので日中はいないでしょう。
- 事務局 話が戻りますが、BCP発動については、鶴岡市の発動基準に合わせております。鶴岡市のホームページで公開されております。地震の場合、震度6弱以上で発動します。あと、台風などで建物に損傷がでた場合等、管理者の指示でBCPの発動の権限を与えています。
- 事務局 現実的に避難所へ移動することは難しく、ここに留まることも選択肢の一つとして準備をしています。
- 構成員C 避難場所は、どのようになっていますか。
- 事務局B 鶴岡市朝日庁舎の近くのコミュニティーセンターに避難することになっています。ただ、職員が高齢化していることもあって、その避難場所まではかなりの距離と時間を要します。その道のりに小高い山があって、そこからの土砂崩れも予想できるので、車いすでの移動は、かなりの困難があって、大規模災害の場面では、その場所に避難することが適切かどうかをとっても迷っています。
- 事務局 構成員のAさん、以前に勤めていた障がい者支援施設では、どこに避難しますか。
- 構成員A 以前勤めていた障がい者支援施設は、土砂崩れが発生しても居住棟の一部は損壊しないと想定で、その居住棟に逃げるか、もしくは若干高台にある体育館に避難することを想定していました。やはり避難所までは数キロ先なので、現実的に避難するのは難しいことと思っています。

事務局 現実的に障がいのある方々が、避難所へ移動することは難しく、ここに留まることも選択肢の一つとして準備をしています。

事務局 次に構成員のBさんから議題を提案して頂きたいと思います。

構成員B 相談支援事業所で今仕事をしております。
私の方からは、事故の発生の状況ですとか、未然に防ぐ対策などされていればお聞かせいただければと思いました。

事務局 「虐待と事故について」の議題の提案ということで、事務局で最初に回答させていただきます。
まず虐待につきましては、ここケアホームつくしんぼで、虐待が発生する可能性は極めて低いと思っております。理由は入居者の保護者が、職員としてつくしんぼに勤務しております。常に親御さんの目が届いている環境です。2つ目の理由として入居者の1人が週3回外部ヘルパーを利用しております。このように常に外部の目が届いており、可視化が図られておりますので、虐待の起こりにくい環境になっております。尚、会社全体の取り組みとして、事務局から説明していただければと思います。

事務局C 虐待防止委員会を年に1回開催しております。そこで話し合ったことを各事業所の方にそれぞれ伝達をしています。それぞれの事業所でも虐待防止の研修と職員の虐待防止のセルフチェックも毎年行っています。セルフチェックを用いて職員と面談をして話を聞いたり、こういうふうにしたらいいかアドバイスをしたりして支援にあたっています。

事務局 全社協で示している虐待防止チェックシートを全職員に1年1回実施しています。
更にわかりやすい言葉を用いたチェック表を作り、虐待につながらないように常に職員に自己点検をさせております。

事務局B グループホームでも実施しました。

事務局 次に事故についてですが、ヒヤリハットも含めて事故の状況はいかがですか。

事務局B 職員が事故を起こした事は、今までありませんでした。しかし外部ヘルパーの方が何回か事故を起こしたことがあります。外部に依頼しているヘルパーさんから週3回位来てもらっていますが、そこで入浴の時に滑って転んだと言う大きな事故はありました。

構成員B それは、ヘルパー事業所に苦情として申し入れてもいいのではないのでしょうか。

事務局 ヘルパー事業所の苦情処理担当者に苦情としてではなく、申し出ということでお話をしたことがありました。

事務局 事務局側からBさん、皆様方に何か理解して頂きたいことがありましたらお話をお願い致し

ます。

事務局B 「入居されている方の障害」と「職員体制」についてです。

(入居されている方の人数、障害支援区分、障害特性、職員体制等について説明する)

事務局 これからは、自由発言として意見交換をしたいと思います。どなたか発言がありましたらお願い致します。

事務局B 地域との関わりについてですが、高齢者と違い障がい者は、どちらかという一般の方々は、まだまだ障がい者には関心が薄く、関わりを避けるような方々が多い中で、どうやって、地域の方々と交流をすればよいのかを模索しています。

構成員A 以前勤めていた障がい者支援施設では夏祭りで多くの地域の方々をお呼びしています。ただコロナで夏祭りが中止になりました。地域の方からも中止になったことで施設との交流も減り、障がい者を理解して頂く機会も無くなったので苦情もきているとのこと。

事務局 代表取締役が運営している施設ではどのようにしていますか。

代表取締役 高齢者のグループホームですが、2 か月に 1 回こういう集まりをやっていて、自治会長さん、婦人会の人、民生委員などが来てくれて結構地域の方の人数が多く参加しています。地域の話をしたり、シソ巻きとか笹巻きを材料に地域の方が持ってきて、利用者さんと一緒に作ったり、あと避難訓練の時に地域の方が参加してくれたり、年1、2回顔を合わせていると普段会ったときにお話ししてくれたりもします。

構成員B 朝日地区の社会福祉協議会に相談する方法もあるかと思います。

事務局 地域コミュニティーは、社会福祉協議会の専門分野なので本部、地区社協などに相談していきたいと思います。

構成員A 議題とは離れているかもしれませんが、この辺にクマはいませんか。

事務局B この間も熊を見て通報したらすごく時間をとられてしまいました。この辺の人は熊を見ても通報はしないようです。

構成員C 朝日地域は、熊だけでなく、猿も猪も鹿もタヌキも全部です。

事務局B 猿は、電気線で失神しても全然減りませんでしたが、一匹駆除されたらなくなりました。

事務局 だいたい予定された時間に近づいてきましたので、最後に発言をしたい方は、いらっしゃいませんか。

事務局 それでは、以上をもちまして、令和7年度地域連携推進会議を終了します。
ありがとうございました。